

Aichi Steiner School News Letter

contents

- P1 卒業に向けて
- P2.3 [Pickup Report 01]
12年生 ドイツ・スイス研修
[Pickup Report 02]
10年生 韓国研修
- P4 入学式を迎えて
数字でみる愛知シュタイナー学園

2024年度卒業生保護者

Wさん

二人のお子さんが愛知シュタイナー学園を卒業

シュタイナー教育を振り返って

成長の節目ごとに演劇を経験し、子どもが成長できたことが、シュタイナー教育を受けさせて良かったと感じる点です。演劇には、国語、物理、音楽、体育など、さまざまな要素が組み合わさっていると感じます。さらに、他人を演じることで、その時々に必要な成長を、クラス全体で共有しながら経験しているように見えました。

また、高等部の授業には大学レベルの内容も含まれており、学ぶ楽しさがあることも魅力の一つでした。現在、大学2年生の長女は、高等部で中山先生から学んだ解剖学が、今になってとてもよく分かったと話してくれました。

私にとって、シュタイナー教育は学びの種まきの場であり、卒業後の進路はその花が開く場所だと思っています。すべてには時があるので、種をまいたら、その花が開くのをじっくり待つことも大切だと感じています。

進学についてのお話などインタビューの全文はwebサイトに掲載しています

2024年度卒業生保護者

Iさん

12年を振り返って

12年前、娘は学園に入学しました。旧学び舎時代より、先生や保護者により美しく整えられた環境で学びました。

担任の先生の言葉で心に残っているのは、「心の栄養となる学びを、子ども達に与えたい」学びが心の栄養になる？初めて聞くことでしたが、娘を見ていると腑に落ちました。日々の授業はもとより、家づくりに代表されるような体験の授業を通して、娘が目に見えて成長していきました。初めての事が多かったですが、娘の変化からカリキュラム一つ一つに大きな意味があるのを感じました。

学童の時間は他学年の子と兄弟のように過ごしていました。上の子は優しく接してくれて、下の子は無邪気で、学年を超えた仲良しがいいます。またシュタイナー他校との交流も良き思い出で、大切な友達もできました。

さて初等部から発表する機会が多く、シャイな娘も次第に度胸がつき、本番に最大限の力を発揮できるコツをつかめたようです。12年生の始めはプレッシャーに押しつぶされそうでしたが、最終的に、卒業プロジェクトや膨大なセリフの卒業演劇、卒業オイリュトミーの発表を堂々とやり切りました。

先生方の支えと導きが大きかったですが、大きな自信になったと思います。さらに3学期の末まで、人生の糧となるような授業と経験をさせてもらいました。

先生方、保護者の皆さん、本当にありがとうございました！

卒業に向けて

— 想い —

一昨年の秋、京田辺シュタイナー学校を引退した時には、教員人生は終了したつもりでいました。まさかこんなに濃密な一年を過ごすことになるとは、思ってもみませんでした。卒業プロジェクト、卒業演劇、卒業オイリュトミーという3大プロジェクトに寄り添うことが出来たことにまず感謝です。そしてその後、最終エポック「人の生き方を考える」として、彼女たちと共に過ごした遠征（北海道、三重、和歌山）の日々は、まぎれもなく私の「人生の宝物」にもなりました。たくさん思い出をありがとう。

二〇二五年三月 高等部教員 太田祥仁

卒業プロジェクト

卒業オイリュトミー

卒業演劇

2024年度卒業生保護者

Nさん

高等部になれば花開く

これは在学中に何度も耳にした言葉です。本当に!?!と思いながらの12年間。とうとう我が家の娘も卒業です。

「12年」と言葉にすると、それはとても長い年月のようですが、振り返れば、瞬く間に過ぎ去ったように思います。12年間「このままで良いのか」と揺れ動いたことは何度もあります。そのたびに思い出したのは先生に教えていただいたリルケの詩の一節です。

「今は問いを生きよ いつの日か その道のりの果て
気づかぬうちに あなたはその答えを 生きているだろう」

何度も「このままで良いのか」と問い続け、ここまで歩んできました。そして今、その道のりの果てとも言える卒業を迎えます。問いに対する答えは人それぞれだと思いますが、リルケの詩の通り、私は“その答え”を生きているような気がしています。

娘は12年間、時には悩みながらも、過ごしてきた日々を糧に成長してきました。積み重ねてきたこれまでの日々が蕾として育ち、今の娘を見て「高等部になれば花開く」をようやく実感しています。蕾の間もあたたかく励まし、見守ってくださった先生方と保護者の皆さまには感謝いたします。

卒業は決してゴールではなく、私も娘もそれぞれの新しい問いを携えながら、新たな道のりを進んで行きます。またいつの日か、その道のりの果て、私と娘が“その答え”を生きていることを願って。

インタビューの全文はwebサイトに掲載しています



卒業生保護者
インタビュー

Pickup Report
01新たな一歩を踏み出す旅
「ドイツ・スイス研修」

高等部教員 太田祥仁

2024年5月、12年生クラスの生徒達は20日間のドイツ・スイス研修の旅に出かけました。この研修は「人と出会うことを通して、自分の世界を少しずつ広げていく」ことを目的としており、三つのステップを踏めるよう準備を進めました。毎年愛知で授業をしてくださっているドイツ在住の茂木先生のご協力を得て、普段先生が活動されているロイトリンゲン、並びにその周辺都市の人智学及びキリスト者共同体に関わる施設、機関を訪ねました。

【第一ステップ】

身近な卒業生たちを訪ねる

最初の訪問地シュトゥットガルトでは、愛知の卒業生とお二人の京田辺シュタイナー学校の卒業生を訪ねました。三者三様でしたが、どの先輩も現地での生活に馴染み、生き生きと自分の学びに動んでいる様子が伺えました。音楽学校に留学中のHさんにはコンサートのリハーサルを見せていただき、生徒たちはその迫力に圧倒されていました。海外で生きている年令の近い日本のシュタイナー学校の卒業生と出会うことで、卒業を控えた生徒達は未来への希望を抱くことが出来たように感じました。

緯度が高いドイツの初夏、なかなか暮れない夕刻から街に繰り出す人を多く見かけました。街では、花を手を持つ人の姿があり、またアパートのバルコニーや庭先で花の手入れをする人をたくさん見かけました。

普段から花と共に暮らす人々の

在り方は、生徒達の印象に

残るものだったようです。



FIRST STEP



建築史で学んだゴシック様式の教会内部

SECOND STEP



【第二ステップ】

ドイツのシュタイナー学校の生徒達と交流する

2番目の訪問地は茂木先生の職場があるロイトリンゲン。シュタイナー学校の生徒たちに日本を紹介し、歌と演奏を披露しました。放課後に6名の女子生徒が宿舎に来てくれて、お互いの国の料理を作り共に味わいました。食後に歌とゲームで交流した後、彼女たちに日本の浴衣を着せてあげました。言葉は十分に通じなくても、同じシュタイナー学校の生徒として繋がる事が出来たひと時でした。

Pickup Report
02

10年生 韓国研修

高等部教員 堀田由佳

初等部から学んできた第二外国語である韓国語の集大成として、現地のシュタイナー学校との交流を含め、韓国で11日間の研修を行いました。

多くの出会いと他国の文化に触れたことで、相手を知り、自分を見つめ直す機会となりました。2年後の卒業を見据えた第一歩です。

海外という自分の知らない世界に対して、初めは不安を抱いていた10年生ですが、最後には「楽しかった!」と笑顔に。周りの力をお借りしながらも、自ら行動することで、多くの学びと自信に繋がりました。

この糧を大切に、これからの日々を歩んで行ってほしいと思います。



● 空港

初めて海外を旅する生徒も多く、当たり前のように他の国の言語が飛び交う環境に緊張していました。

● 韓国のシュタイナー学校紹介

安養(アニャン)ヴァルドルフスクールは、賑やかな街を抜けた自然豊かな山の麓にあります。3月の訪問時にはまだ雪が残っていました。

学校の規模が我が校と同じくらいで、第二外国語に日本語を学ぶなど共通点があり、今回初のクラス単位での交換留学が実現しました。



● 授業風景

教室にはドイツからの交換留学生もいた為、韓国語、日本語、ドイツ語、英語が飛び交っていました。

エポック授業は物理学、黒板には韓国語・漢字・ローマ字が並び、教員は韓国語と英語で説明し、みんなが様々な言語とジェスチャーで交流していました。



研修を終えて

今回の研修を通して生徒たちが学んだことを3つご紹介します。

1. 最新の世界情勢を身近に、かつリアルに感じました。
2. 日々の中で、家族との時間や花のある暮らしを大切にするドイツの人たちの豊かさを感じました。
3. 人と人が繋がる上で、共に歌うという行為の持つ力を再認識しました。

愛知シュタイナー学園として初めての試みであった高等部海外研修は、充実した素晴らしいものになりました。この旅で得た学びは、きっと生徒達のこれからの歩みの中で「豊かな力」に変容していくことでしょう。この旅を実現させていただいた全ての方々に感謝申し上げます。



ユースフェスティバルでの活動(ダンス)

【第三ステップ】

世界の若者たちと集う

3 番目の訪問地は、この旅のハイライトに位置づけていたユースフェスティバルが行われるコンスタンツ。スイスとの国境の街です。「IKIGAI (生き甲斐)」というテーマのもと、世界各国から人智学関係の若者約 200 名がひとつのシュタイナー学校に集い、4 泊 5 日の合宿形式のワークショップに参加しました。この中にはウクライナの 15 名の学生も含まれ、ロシアの学生との意見交換もありました。日々の食事は、バイオダイナミック農場で育った食材を使用したものばかりで、シンプルでしたがとても贅沢なものでした。一日は神聖な礼拝に始まります。皆で数々の歌を歌い、基調講演を聞き、午後には各々の好きな分野の活動(ダンス、演劇、討論、講義など)に分かれます。そして夜は日替わりで様々な企画を楽しみました。仮設のトイレとシャワーを皆で準備し、寝袋を使って教室で寝泊まりする生活は、若い高校生には刺激的な交流体験になっていたようです。日を追うごとに休憩時間の交流が増え、私も円陣バレーを通して人との繋がりを深め、声を掛け合う機会が増えていきました。また、本題である「IKIGAI」について、5 日間を通して少しずつ問いを深め、「IKIGAI とはどういうものか」「自分の IKIGAI は何か」ということを、語り合う機会となりました。

最後の夜には各国の文化紹介のステージがあり、日本代表である 12 年生の生徒達は、浴衣姿での演奏とコーラスを披露。遠いアジアの国からの音楽に、会場内はとても沸き立ちました。更に翌朝のクロージングでは、期間中に皆で歌い続けた歌を参加者全員で大合唱しました。「Never give up!」と歌い上げる歌声は、とても力強く感動的なものでした。



ゲーテアナム内部の様子



【旅の最後に】

シュタイナーの息吹を感じる

最後の訪問地は国境を越えたスイス。張り詰めていた心の緊張は解け、アルプスの大自然に癒されてきました。そして人智学の拠点であるドルナッハのゲーテアナムを訪ね、ルドルフ・シュタイナーの息吹をたっぷりと感じてきました。広大な敷地に当たり前のように佇むシュタイナーが設計した建築群に触れ、とても心地よい安堵感のようなものを覚えました。



THIRD STEP



● スポーツを通しての交流

教室での言葉だけのやりとりにはぎこちなさもありましたが、体を動かすことで日を追うごとにお互いの距離がグッと縮まりました。バスケットボールの試合の中で、自然に名前を呼び合い、声掛けや会話も自然と増えていきました。

● おもてなし

今回は 2 か所のお宅に分かれてホームステイをさせていただきました。初めての韓国に緊張していた生徒たちも、温かく迎えてくださったご家族や学校のおかげで、元気に毎日を過ごせました。

● 韓国の食文化

食堂でもキムチやナムルなどの副菜がサービスされます。食材は日本と似ていても味付けは違うため、驚きつつもすべて美味しくいただきました。銀の器、長い箸も新鮮で、大人数で囲む食卓から韓国の文化にも触れることができました。



この春9人の新一年生をお迎えしました

春の光と共に

1年生担任 森 智子

うらかな晴れの入学式。会場の扉が開いた瞬間、差し込む春の光に包まれた1年生が、上級生に手を引かれ入場する姿に、涙が頬をつたいました。

沢山の花の香りや美しい演奏を全身で感じ、参列された方々から温かく迎えられました。

1年生は、名前を呼ぶと、緊張しつつ希望に満ちた眼差しでお花のアーチをくぐり、同じく新たな歩みを始めた私と、しっかり握手をしてくれました。

初めて接した子どもたちの手の感触は忘れられないことでしょう。小さく優しいこの手が大きくなり、いつかこの学園を旅立つ日に向けて私は何ができるのだろうか。この学園が心から信頼できる場所であるよう、心地よい場を築くとともに、尊い子どもたちと共に学び合い、心と身体を通して世界と出会う体験を重ねていこう！と誓いました。

1年生は入学式の後、初めての授業を行いました。子どもたちは教室に入り、私の「学校は何をしに来る所ですか？」の問いかけに、少し和らいだ様子で「勉強するところ！」「字を書いたり、計算したり歌ったりするところ！」などと沢山答えてくれました。そしてこの世界が直線と曲線でできていることを学び、実際に一人ずつ自分の手で、直線と曲線を黒板に描きました。

最後にみんなで学びを分かち合うように直線と曲線の形をしたクッキーを頬張り、入学式、はじめての授業が、思い出の1ページに刻まれました。

一日一日を大切に、子どもたちと共に成長していきたいと思えます。この場をお借りして、素晴らしい入学式にお力添えいただいた皆様に感謝致します。

お花のアーチや冠、ホールの隅々まで優しさであふれた心のこもった手作りの式。大勢の中の1人ではなく、たったひとりの大切な存在として受け入れてもらえたんだとうれしくなりました。待ち望んだこの日に迎えた入学式はとても温かくて、ここから始まるんだという希望が胸がいっぱいになりました。

入学保護者 Aさん

入学の日を迎え、花のアーチをくぐり、先生と握手する娘の姿に嬉しさが溢れました。シュタイナー教育に出会い、学園の催しに参加する中で通わせたい思いが強まり、無事に入学できたことに感謝しています。これからの親としての学びも楽しみです。

入学保護者 Mさん

長男の入学で初めて迎えたシュタイナー学園の入学式。緊張しながらも花のアーチをくぐる姿に、二年生で転入した長女の時には見られなかった光景が重なり、胸がじんわりと温くなりました。これから2人が、それぞれの歩幅でのびのびと学園での学びを楽しんでくれますように。

入学保護者 Tさん

数字でみる 愛知シュタイナー学園

DATA 01 2025 年度 4月現在の生徒数と男女比

男子 40人	女子 41人
--------	--------

DATA 02 2025 年度 新入家庭数・転入家庭数

新入家庭 5家庭	転入家庭 1家庭
----------	----------

DATA 03 在校家庭の居住エリア

名古屋市 25 家庭	日進市 20 家庭	その他 14 家庭
------------	-----------	-----------

DATA 04 学年別生徒数

現在、愛知シュタイナー学園には59家庭、全81名の生徒が通っています。

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
生徒数	9人	12人	12人	9人	7人	8人	8人	5人	3人	3人	5人

公開イベントのご案内

入学・転入をお考えの方必須

学園説明会

2025年5月24日(土)・25日(日)

入学や転入をお考えの方だけでなく、シュタイナー教育に興味をお持ちの方もご参加いただけます。詳細はこちら▶

予約受付中!

ハートフルで新しい

性教育講座

2025年7月6日(日)

昨年ご好評いただいた小貫大輔先生(東海大学教授)をお招きします。お楽しみに!

要予約

親子でともし小さな灯り

アドヴェントのタベ

2025年11月29日(土)

親子でお楽しみいただける体験企画やクリスマスコンサートなど、アドヴェントの雰囲気をお楽しみいただけるイベントです。

※イベントの詳細は決まり次第 web サイト等でお知らせいたします。

Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。

website

Instagram

facebook

公式 LINE

ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人
愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel & Fax: 0561-76-3713
HP: aichi-steiner.org
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com